

「また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、
30倍、60倍、100倍になった。」
(マルコの福音書4章8節)

多くの実を結んで下さる神

新年度を迎え、陽気な季節となってきました。今年は暖冬の影響で早い開花宣言となりそうですが、学生や社会人にとっては新たな1年のスタートです。社会が活気にあふれると同じように、4月になると畑も盛んになっていきます。おおよそこの時期は、初夏に収穫する野菜を植える時期です。枝豆やオクラ、ほうれん草、小松菜、人参、ごぼうといった野菜の種や苗を植える方が多いかもしれません。数か月の地中生活を経て成長し、出来上がった野菜は私たちの食卓を愉ませてくれます。以前、私はある記事を読んでいたところ、千葉県で有機栽培をされている農家の方の言葉が目にとまりました。それは、「畑には良い土作りが大切です」という言葉でした。美味しい野菜を作るためには、腐っていない、しっかりした種や青々と葉が咲いている苗が望ましいでしょう。丁寧に水やりをし、雑草を取り除き、太陽の光をたっぷりあげることが大事なことです。しかし、この農家の方は「土が大事だ」と紹介しています。しかも「良い土作り」が美味しい野菜を育てる上での大切な条件であるということでした。



ところで、聖書にも、この土や種をたとえ話で使って多くの実を結んだ、という箇所があります。イエス・キリストを求めて集まってきた多くの群衆のために、イエス・キリストがこのたとえ話をされました。

(マルコの福音書4章3～8節)

「種を蒔く人が種蒔きに出かけた。蒔いていると、ある種が道端に落ちた。すると、鳥が来て食べてしまった。また、別の種は土の薄い岩地に落ちた。土が深くなかったのですぐに芽を出したが、日が昇るとしおれ、根が枯れてしまった。また、別の種は茨の中に落ちた。すると、茨が伸びてふさいでしまったので、実を結ばなかった。また、別の種は良い地に落ちた。すると芽生え、育って実を結び、30倍、60倍、100倍になった。」



私たちの知識から考えても、非常にイメージしやすいたとえ話ではないでしょうか？ところで、種や種を蒔く人、道端、岩地…とは何を意味しているのでしょうか？それは、この後の聖書箇所を見ると、答えが書かれています。このたとえ話に出てくる“種”とは“みことば（聖書）”のことで、“種を蒔く人”とは“みことばを蒔く人（聖書を語る人）”のこと。さらに、“蒔かれた場所（道端、岩地、茨、良い地）”とは、“私たちの心の在り方”を示していることが分かります。つまり、私たちが聖書のお話を聞いた時に、素直に聞いて、受け入れ信じることは30倍、60倍、100倍の実を結び、とイエス・キリストは語られました。ここから、神様は私たちに豊かな実を結ばせようとなさっておられることが分かります。私たちの心という土を柔らかくできたら、どれほどみことばが信頼に足るものであることが知ることができるでしょう。それは30倍、60倍、100倍の実を結ぶほどの恵みです。私たちの心を真の神に向けることができれば、どれほどの神の憐れみを知ることができるでしょう。それは困難な時、試練の時、悲しい時、辛い時にこそ、大いに臨んで下さる神の憐れみです。

このたとえ話の後、イエス・キリストはこのようにおっしゃいました。「聞く耳のある者は聞きなさい」と。聖書がなぜ世界のベストセラーとなったのか、この疑問を解決する鍵がイエス・キリストです。イエス・キリストこそ私たちの救い主であり、私たちに種を蒔き続けて下さり、やがて多くの実を結ぼうと願っておられるお方です。ぜひ、一緒に聖書のみことば（神からのメッセージ）に耳を傾けてみませんか？今日もなお、イエス・キリストは私たちに語り続けておられます。「聞く耳のある者は聞きなさい」と。

私たちの心という固い土を柔らかくし、真の神からの恵みを知ることができますように。(M)